

### Q1 鼠径ヘルニアって何？

鼠径とは太ももの付け根部分をいい、「鼠径ヘルニア」とは本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が、筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。

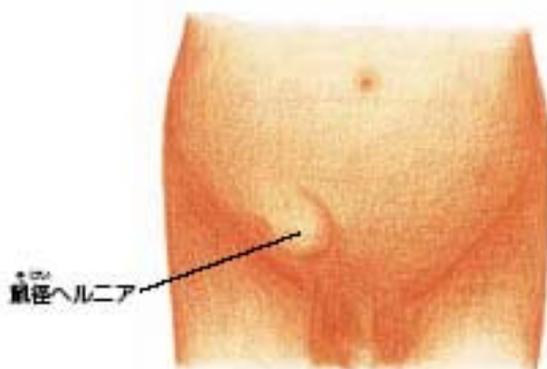
図の様にタイヤの弱くなった部分から内部のチューブが突き出ているのに似ています。

#### イメージ



### Q2 鼠径ヘルニアの症状

初期の頃は、立ったときとかお腹に力を入れた時に、鼠径部の皮膚の下に腹膜や腸の一部などが出てきて、柔らかいはれができますが、ふつうは指で押さえると引っ込みます。はれが急に硬くなったり、抑えても引っ込まなくなることがあり、お腹が痛くなったり吐いたりします。これをヘルニアのカントンといい、急いで手術をしなければ、命にかかわることになります。



### Q3 治療方法は？

薬で治療はできません。

カントンを起こす前に手術をすれば簡単に治ります。当院ではメッシュプラグ法という手術を行っております。図の傘のような形をしたプラグ(栓)を筋膜の弱い部分に入れて、腸などが出てくるのを防ぎます。この方法は手術時間が短く、手術創の大きさは約4cmです。また、術後の痛みも軽くてすみます。

入院期間も従来の方法に比べ、短くてすみますので、お仕事を休む期間も短くてすみます。



日常生活に復帰するまでには、一概には何日ということはありませんが、散歩や軽い運動などは通常術後1週間から2週間がめやすくなります。

詳しいことは、主治医にご相談ください。